

海上の森自然観察会

テーマ 新緑の森で自然を感じよう！

日時 2013年5月18日(土)10:00~14:00(晴)

参加者 一般3名、その他団体5名、指導員:5名

立夏(5/5)を過ぎ、暦のうえでは既に夏で、間もなく二十四節気の小満(5/21)を迎えようとしています。小満は陽気がよくなって万物が成長し、天地に満ち始める時期です。海上の森では、新緑が目によさしく、いろいろな植物が花を咲かせています。

ジャケツイバラやハクウンボクの花を見ようと物見山方面に向かいました。

駐車場を出るとすぐに、ツクバネウツギとコツクバネウツギの花があり、両者を比較し違いを確認しました。近くには日本海側に多いタニウツギもあり、これらスイカズラ科の「ウツギ」という名の付いた植物と、ユキノシタ科の「ウツギ」という種名の植物があることを紹介しました。試験管を洗う細長いブラシのような形状のシライトソウの花や、奇妙な形のタンザワウマノスズクサの花などを見て、写真に撮っていると、なかなか先に進めません。

季節の移り変わりは早いもので、1月前に蕾だったカマツカやサワフタギはすでに花は散り、1週間前にまだ蕾が固かったハクウンボクとジャケツイバラも開花していました。エゴノキ科のハクウンボクはエゴノキの花の形によく似ていることを見られました。

新緑の若葉は昆虫の幼虫にとってかっこうの食糧です。この時期、いろいろな幼虫が木の枝から細い糸でぶら下がっている姿が見られます。また、エゴノキの葉にオトシブミがついていました。エゴツルクビオトシブミという小さな甲虫が葉の主脈まで噛み切って、葉が萎れてきたところを巻いてその中に卵を産みつけたものです。こうした幼虫は、子育てをする野鳥の餌となって森の生態系を支えています。夏鳥のセンダイムシクイやキビタキの声が随所で聞かれました。途中にオオルリの巣があり、親鳥が卵を温めていましたが、このオオルリもはるばる南の国から子育てのためにえさが豊富なこの森に渡ってきたものです。無事に巣立ってほしいものと思いつつ、速足で通り過ぎました。

物見山で昼食をとった後、林道を歩いているとカメラを構えてサンコウチョウを狙っている人から、撮った写真を見せてもらいました。そこから少し下った所ではサンコウチョウの鳴き交わす声を聞くこともできました。

大正池は昨年からはばらく改修工事で水が抜かれていましたが、この日は水を満々と湛えて、周りの木々を写していました。

天候に恵まれ、新緑や花を愛で、野鳥のさえずりを楽しめた初夏の観察会でした。(報告:齋竹善行)
＜観察できたもの＞野鳥:ウグイス(声)、センダイムシクイ(声)、キビタキ(声)、サンコウチョウ(声)、ホトギス(声)、イカル(声)、オオルリ、サンショウクイ、メジロ、ヒヨドリ、コゲラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ツバメ、ホオジロ、キジバト、ハシブトガラス、ハシボソガラス 昆虫:ニホンカワトンボ、アサヒナカワトンボ、シオヤトンボ、シオカラトンボ、ナミアゲハ、オナガアゲハ、モンキアゲハ、ナガサキアゲハ、カラスアゲハ、クロアゲハ、コムシジ、コジャノメ、ダイミョウセセリ、コチャバナセセリ、シロシタホタルガ(幼虫)、ミカワオサムシ
その他:カナヘビ

花:ツクバネウツギ、コツクバネウツギ、ウツギ、タニウツギ、シライトソウ、クサノオウ、ムラサキサギゴケ、ニョイスミレ、ミヤマナルコユリ、コアジサイ、ヤマボウシ、セイヨウタンポポ、エゴノキ、ノミノツヅリ、モチツツジ、タンザワウマノスズクサ、タカノツメ、キツネノボタン、ミカワチャルメルソウ、ハクウンボク、ハナイカダ、ジャケツイバラ、ツリバナ



(観察会のようす)



(ハクウンボク)